

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670300296		
法人名	(有) プレタ		
事業所名	グループホーム ファミリーヒルズ		
所在地	徳島県小松島市新居見町東山下102-4		
自己評価作成日	平成24年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方が安心、安楽に生活できるように気配りを行っている。長い人生の最終の生活の場としてゆったり余生を過ごしてもらえれば幸いである。その方が楽しいと思って生活してもらえれば体も精神面も安定してくると考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道から少し入った高台に位置しており、周囲は田園地帯に囲まれている。居室は、日あたりや風通しが良い。天気の良い日には、市内を見渡すことのできる静かな環境に位置している。利用者の楽しみの一つである食事は、毎日、管理者自らが市場に向いて食材の買い付けを行い、利用者の“好むメニュー”や“食べやすいメニュー”“身体に即したメニュー”など、利用者一人ひとりの状態に応じた献立を提供して喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			カモミール 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の場で理念、方向性について話合っている。利用者本位のケアの方向性がブレるので定期的に話し合い修正している。援助し共に喜ぶ場面が良いが時がたつと指導する場面が多くなったりするためである。	職員は、理念の「よい家。よい食。よき家族」について話し合いを重ね、全職員で共有している。理念を事業所内に掲示し、つねに振り返って具体的なケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中で生活しているとの場面は少ない。近隣が少ないし交流に行く場面も少ない。外出等で近隣に出かける時はよくある。又、地元の方の訪問等も積極的に受け入れている。	自治会の役員や民生委員を通じて、地域との交流を行っている。地元の中学生による事業所体験の受け入れを行い、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3年前ぐらい前からは認知症に関して民生児童委員、社会福祉協議会、居宅の職員等に対して啓発を行ってきた。小松島市全体をほぼ回ったのでここ1年ぐらいは活動していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の運営、行事、変化、取り組みなどを報告している。地域代表の方にも出席して頂き意見を頂いて業務に生かしている。特に東南海地震の体験などは防災面での施設運営に際し大変参考になる。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者代表や家族、地域住民、市介護課担当職員の出席があり、事業所の取り組み報告や課題等について話しあっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小松島市福祉課の担当の方が、積極的に協力して頂き運営推進会議等でご意見を頂いている。又、施設間の管理者会合等にも市職員が参加して頂き交流を図っている。良い関係が保たれている。	日ごろから、市担当職員と連絡をとりあって事業所の状況を報告している。市担当者と情報の共有化に努めており、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設のドアは施錠している。家族等にはその意味を文章で説明している。施設内に身体拘束廃止に関する委員会を設置し定期的に会議で話し合い廃止に向けて取り組んでいる。又、法規、弊害等についても勉強会を実施している。	管理者や職員は、身体拘束の内容とその弊害について理解している。しかし、利用者の安全面等の理由から、家族へ文書での説明を行ったうえで、1階の玄関を施錠している。なお、事業所では、定期的に勉強会を開催しており、身体拘束の廃止に向け取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置している。高齢者虐待防止法の目的、範囲、該当項目等を施設内研修で周知している。利用者が虐待無く安心して暮らせるように会議で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			カモミール 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等の研修は管理職が以前受けているので、そのような事例が発生した場合は関係機関に連絡する手順は理解しているし対応も行う方向である。現在当施設には該当者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書に添い説明し、納得してもらい署名捺印して頂いている。十分時間をかけ話し合い納得してもらい契約を締結している。締結後も不明な点については常時説明する体制を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からのご意見は素直に受け入れている。意見箱も設置している。又意見によっては推進会議の議案とすることも考慮している。出来ること出来ないことは明確にしていきたいが、柔軟に対応していきたい。	家族の来訪時に、意見や要望を聞くよう努め、個別対応を行っている。出された意見や要望は、職員間で話しあい、運営面や日ごろのケアに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において代表者も参加する場面を設けている。又、業務の変更事項などについては職員会議で了承を得るようによりに配慮している。職員の意見はいつでも受け入れるスタイルで運営している。	職員会議に法人の代表者が出席しており、職員の意見や要望を聞く機会となっている。日ごろから、管理者と職員は、気軽に話しあうことのできる関係を構築している。職員は、管理者へ卒直な意見を伝えており、検討を重ねたうえでケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意志を尊重するスタイルで意見を取り入れている。無駄な残業は無く、有給休暇も取得しやすい。不公平があればモチベーションが下がるので公平に処遇することを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が向上できるように研修の機会を設けると共に資格取得に関しても前向きに取り組むような指導を実施している。一人前育てるのが管理者の義務と考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者に会議室を提供し他の施設の管理者との交流会を定期的実施している。情報交換の場としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			カモミール 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心できるように笑顔でゆっくり施設の説明を行い、不安な点が無い様に尋ねながら進めている。又、初期は頻りに訪室し会話する機会を多くし不安な点がないか確認し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には利用前に時間をかけて話を聞いている。家族趣味、仕事など多方面の会話により早期に信頼関係が構築できるようにコミュニケーションに配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提供時において介護施設の目的を他の介護施設も含めて説明し他の介護施設の介護が妥当であると判断した場合は、その理由を説明すると共に必要ならば施設の紹介も行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な会話の場面も見られる。友人の様な関係で日常を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意味がわからないが家族との絆をどうこうとは考えていない。家族の悩みは聞く場面もあるがアドバイスできる内容ならアドバイスする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設としては今までのライフスタイルを否定することはない。希望が有れば出来る限り支援し出掛ける。	利用者がこれまで大切にしてきた繋がりを継続することができるよう支援している。以前住んでいた場所の周辺へ出かけたたり、馴染みの美容院へ行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間での人間関係には配慮している。和が保てるように席配置なども対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			カモミール 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後も相談等はいつでも受け入れるように配慮している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設の生活の流れの中で本人の意向を尊重出来る場面は尊重している。意向の把握も職員間で話し合い配慮出来る場面は配慮している。	日ごろから、職員は、利用者ひとり一人の言葉や表情、態度等に留意し、意向や思いの把握に努めている。把握した情報は、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	仕事、家庭の環境などは家族から情報を得ている。その情報の中から施設内での生活に生かせるような努力は行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中での本人の能力を引き出すように配慮はしている。大切なのは本人に対してプレッシャーとなりストレスが発生するような行き過ぎに注意している。出来ることも大切であるがやる気になることのほうがもっと大切であると考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの内容については家族、介護、看護など多方面の意見をカンファレンスにて話し合いケア計画を策定している。利用者の状況は頻繁に変わるケースが多いのでケアプランは方針としてあるが細かい内容はその都度話し合い日誌等で周知している。	利用者一人ひとりの現状に応じた介護計画書を作成するため、本人の意向や家族の思い、意見等を聞いている。利用者の状態変化に応じて計画書を見直している。職員間で、気づきや意見の共有・交換を行って、モニタリングに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はあるが生き生きと具体的な記録までには至っていない。情報は共有しているが全てが介護計画に生かせるような記録の内容ばかりではない。書くことの大切さは職員も理解している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の多様なニーズに対して、例えば引越しの援助、その他の日常の雑務など協力出来ることは施設として前向きに考え実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			カモミール 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災時において地元の警察、住民等に対して協力体制を整備しているが、普段の生活においては交流は少ない。当施設の立地条件が高台であり住宅などと距離があることも原因である。だが、高台であるので災害時は地域の避難場所として協力できる体制を整備している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人と話し合いながら希望する医療機関に連絡している。特に希望がない場合においては、当施設の協力病院を紹介している。	利用者や家族と話しあい、事業所の協力医療機関が主治医となっている。利用者や家族の希望に応じて他の医療機関の受診を支援している。また、利用者の体調や状態に応じて、協力医療機関による往診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約により定期的な訪問を実施し、適切に身体状況を管理してもらっている。介護側看護側双方の情報、意見を出し合い必要ならば医師に連絡し適切に対応している。協力医療機関は定期的に往診に来てくれる。又、必要に応じて往診、紹介などの対応もいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連絡を密にして入院の援助を行う。又、病棟の医師、看護師との連絡を密にして変化があったり家族が困ったことがあれば柔軟かつ適切に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所当時から将来の状態についてアバウトな説明はしている。重度化した場合は家族、医療機関と相談しながら方針を決定している。当施設で	入居時の段階で、利用者や家族へ重要事項説明に基づいて“看取りに対する指針”に関する説明を行っている。家族の意見も取り入れて、終末期のケアに関する方針の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての研修は実施している。実践力が全員とは言えないが身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。火災は避難が必要であるが当施設は高台であり水害地は避難場所としての指定を受けているので安心できる。	年2回、消防団の協力のもと、避難訓練を実施している。事業所が高台に位置していることなどから、水害時における地域の避難場所として指定を受けている。事業所内に食糧を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			カモミール 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の維持については難しい問題である。仲良くなるのが大切であるがそれが弊害となる場面が頻繁に見られる。9人に対して同じチームがケアしていくわけだがスタッフの人格とモラルが大きく左右する。	日ごろから、管理者や職員は、利用者一人ひとりに尊厳の心をもって接するよう話しあっている。利用者の誇りやプライバシーの確保に努め、本人の気持ちに配慮した優しいケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意志は尊重し時間なども出来る限り融通を利かせている。食事の好みも配慮して提供している。いやなことは出来るだけしない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴などの時間は出来る限り守ってもらいたい但他には特に決まり事はない。本人の意志を尊重する場面が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば添うようにしている。髪型なども美容院に行く方を何名か居る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は専属の職員がほぼ作っているが利用者とおやつ、簡単なファーストフードなどを作成する場合は利用者と共にいる。生ものが嫌いな方は煮るなどの対応を行っている。食事を一緒に作れる利用者が少ない。	毎日、管理者自らが市場に向いて食材の買い付けを行い、利用者の“好むメニュー”や“食べやすいメニュー”“身体に即したメニュー”など、利用者一人ひとりの状態に応じた献立を提供している。利用者と職員は、ともに食卓を囲んで食事をとっており、和やかな雰囲気がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎回チェックしている。体重の増減の毎月チェックしている。又、定期的な健康診断により医師が身体的管理もしてくれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。自力で出来る利用者には出来る限り能力に応じたケアを実施している。口腔内のケアが肺炎予防などに大切なことも職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			カモミール 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレを基本として出来る限りおむつは使用しないように心掛けている。筋力が低下しても補助する。	排泄チェックシートを参考にして、利用者一人ひとりのパターンを把握している。日中はトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄はチェックし、特に排便は便秘にならないように注意している。水分、食材、下剤、煎じ茶など多様な方法で適切に排便があるようケアしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日等は決まっているが湯の温度、入浴時間などは本人の意志を尊重している。一人でゆっくり入ってもらっている。	利用者の希望に応じた入浴を支援している。入浴を拒む利用者には、声かけやタイミングを見計らって、気持ちよく入浴できるよう工夫している。清拭も取り入れ、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静かな環境であるのでゆっくり眠れる。日中でも好きなように休める場所がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬の全てを職員が把握はしていないがポイントとなる薬、臨時薬などは趣旨を理解し服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の嗜好は尊重し提供している。趣味等も本人が好む内容を提供するように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望どおりの外出は不可能であるが利用者の意向に留意して外出できる機会を設けている。家族が協力してくれて外出できる機会もある。	事業所では、ドライブや外食、季節に応じた行事等を行って、利用者一人ひとりの楽しみを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			カモミール 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて所持している。外出時などは自由に使えるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も手紙も自由であり制限はない。希望すれば援助も行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は温度、湿度も快適に過ごせるようにしている。刺激するものはない。	共用空間はすべてバリアフリーとなっている。居室は、騒音防止構造となっている。また、明るくゆったりとしており、家庭的な雰囲気もある。湿度や温度にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置等は利用者間の好き嫌いに配慮し配置を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前に利用していた家具などの持ち込みを家族にも勧め協力してもらっている。	居室は広く、日当たりも良い。家族と相談し、利用者が安心して過ごすことができるようプライバシーに配慮した環境づくりに取り組んでいる。また、利用者の馴染みの品物を持ち込んでもらい、自分の家の雰囲気を感じてもらえるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等も多様に配置し排泄なども本人の実力に応じた生活ができるように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ラベンダー 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の場で理念、方向性について話合っている。利用者本位のケアの方向性がブレるので定期的に話し合い修正している。援助し共に喜ぶ場面が良いが時がたつと指導する場面が多くなったりするためである。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の中で生活しているとの場面は少ない。近隣が少ないし交流に行く場面も少ない。外出等で近隣に出かける時はよくある。又、地元の方の訪問等も積極的に受け入れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3年前ぐらい前からは認知症に関して民生児童委員、社会福祉協議会、居宅の職員等に対して啓発を行ってきた。小松島市全体をほぼ回ったのでここ1年ぐらいは活動していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の運営、行事、変化、取り組みなどを報告している。地域代表の方にも出席して頂き意見を頂いて業務に生かしている。特に東南海地震の体験などは防災面での施設運営に際し大変参考になる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小松島市福祉課の担当の方が、積極的に協力して頂き運営推進会議等でご意見を頂いている。又、施設間の管理者会合等にも市職員が参加して頂き交流を図っている。良い関係が保たれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設のドアは施錠している。家族等にはその意味を文章で説明している。施設内に身体拘束廃止に関する委員会を設置し定期的に会議で話し合い廃止に向けて取り組んでいる。又、法規、弊害等についても勉強会を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置している。高齢者虐待防止法の目的、範囲、該当項目等を施設内研修で周知している。利用者が虐待無く安心して暮らせるように会議で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ラベンダー 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度等の研修は管理職が以前受けているので、そのような事例が発生した場合は関係機関に連絡する手順は理解しているし対応も行う方向である。現在当施設には該当者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書に添い説明し、納得してもらい署名捺印して頂いている。十分時間をかけ話し合い納得してもらい契約を締結している。締結後も不明な点については常時説明する体制を説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からのご意見は素直に受け入れている。意見箱も設置している。又意見によっては推進会議の議案とすることも考慮している。出来ること出来ないことは明確にしていきたいが、柔軟に対応していきたい。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議において代表者も参加する場面を設けている。又、業務の変更事項などについては職員会議で了承を得るように配慮している。職員の意見はいつでも受け入れるスタイルで運営している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意志を尊重するスタイルで意見を取り入れている。無駄な残業は無く、有給休暇も取得しやすい。不公平があればモチベーションが下がるので公平に処遇することを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が向上できるように研修の機会を設けると共に資格取得に関しても前向きに取り組むような指導を実施している。一人前育てるのが管理者の義務と考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者に会議室を提供し他の施設の管理者との交流会を定期的実施している。情報交換の場としている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ラベンダー 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心できるように笑顔でゆっくり施設の説明を行い、不安な点が無い様に尋ねながら進めている。又、初期は頻りに訪室し会話する機会を多くし不安な点がないか確認し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には利用前に時間をかけて話を聞いている。家族趣味、仕事など多方面の会話により早期に信頼関係が構築できるようにコミュニケーションに配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提供時において介護施設の目的を他の介護施設も含めて説明し他の介護施設の介護が妥当であると判断した場合は、その理由を説明すると共に必要ならば施設の紹介も行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な会話の場面も見られる。友人の様な関係で日常を生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意味がわからないが家族との絆をどうこうとは考えていない。家族の悩みは聞く場面もあるがアドバイスできる内容ならアドバイスする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設としては今までのライブスタイルを否定することはない。希望が有れば出来る限り支援し出掛ける。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間での人間関係には配慮している。和が保てるように席配置なども対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ラベンダー 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談等はいつでも受け入れるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設の生活の流れの中で本人の意向を尊重出来る場面は尊重している。意向の把握も職員間で話し合い配慮出来る場面は配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	仕事、家庭の環境などは家族から情報を得ている。その情報の中から施設内での生活に生かせるような努力は行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中での本人の能力を引き出すように配慮はしている。大切なのは本人に対してプレッシャーとなりストレスが発生するような行き過ぎに注意している。出来ることも大切であるがやる気になることのほうがもっと大切であると考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアの内容については家族、介護、看護など多方面の意見をカンファレンスにて話し合いケア計画を策定している。利用者の状況は頻繁に変わるケースが多いのでケアプランは方針としてあるが細かい内容はその都度話し合い日誌等で周知している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はあるが生き生きと具体的な記録までには至っていない。情報は共有しているが全てが介護計画に生かせるような記録の内容ばかりではない。書くことの大切さは職員も理解している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の多様なニーズに対して、例えば引越しの援助、その他の日常の雑務など協力出来ることは施設として前向きに考え実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ラベンダー 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災時において地元の警察、住民等に対して協力体制を整備しているが、普段の生活においては交流は少ない。当施設の立地条件が高台であり住宅などと距離があることも原因である。だが、高台であるので災害時は地域の避難場所として協力できる体制を整備している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人と話し合いながら希望する医療機関に連絡している。特に希望がない場合においては、当施設の協力病院を紹介している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との契約により定期的な訪問を実施し、適切に身体状況を管理してもらっている。介護側看護側双方の情報、意見を出し合い必要ならば医師に連絡し適切に対応している。協力医療機関は定期的に往診に来てくれている。又、必要に応じて往診、紹介などの対応もしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と連絡を密にして入院の援助を行う。又、病棟の医師、看護師との連絡を密にして変化があったり家族が困ったことがあれば柔軟かつ適切に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所当時から将来の状態についてアバウトな説明はしている。重度化した場合は家族、医療機関と相談しながら方針を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての研修は実施している。実践力が全員とは言えないが身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。火災は避難が必要であるが当施設は高台であり水害地は避難場所としての指定を受けているので安心できる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ラベンダー 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の維持については難しい問題である。仲良くなるのが大切であるがそれが弊害となる場面が頻繁に見られる。9人に対して同じチームがケアしていくわけだがスタッフの人格とモラルが大きく左右する。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意志は尊重し時間なども出来る限り融通を利かせている。食事の好みも配慮して提供している。いやなことは出来るだけしない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴などの時間は出来る限り守ってもらいたい但他には特に決まり事はない。本人の意志を尊重する場面が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば添うようにしている。髪型なども美容院に行く方を何名か居る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は専属の職員がほぼ作っているが利用者とおやつ、簡単なファーストフードなどを作成する場合は利用者と共にしている。生ものが嫌いな方は煮るなどの対応を行っている。食事を一緒に作れる利用者が少ない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎回チェックしている。体重の増減の毎月チェックしている。又、定期的な健康診断により医師が身体的管理もしてくれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。自力で出来る利用者には出来る限り能力に応じたケアを実施している。口腔内のケアが肺炎予防などに大切なことも職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ラベンダー 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレを基本として出来る限りおむつは使用しないように心掛けている。筋力が低下しても補助する。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄はチェックし、特に排便は便秘にならないように注意している。水分、食材、下剤、煎じ茶など多様な方法で適切に排便があるようケアしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日等は決まっているが湯の温度、入浴時間などは本人の意志を尊重している。一人でゆっくり入ってもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	静かな環境であるのでゆっくり眠れる。日中でも好きなように休める場所がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬の全てを職員が把握はしていないがポイントとなる薬、臨時薬などは趣旨を理解し服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の嗜好は尊重し提供している。趣味等も本人が好む内容を提供するように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望どおりの外出は不可能であるが利用者の意向に留意して外出できる機会を設けている。家族が協力してくれて外出できる機会もある。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ラベンダー 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて所持している。外出時などは自由に使えるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も手紙も自由であり制限はない。希望すれば援助も行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間は温度、湿度も快適に過ごせるようにしている。刺激するようにはない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置等は利用者間の好き嫌いに配慮し配置を決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前に利用していた家具などの持ち込みを家族にも勧め協力してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等も多様に配置し排泄なども本人の実力に応じた生活ができるように配慮している。		